

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890600063		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ神戸西代(1階さくら)		
所在地	兵庫県神戸市長田区西代通4-7-1		
自己評価作成日	平成23年1月18日	評価結果市町村受理日	平成23年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hvogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2890600063&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入居者の写真を掲示し、入居者の思い出や家族写真等で失われる記憶を留め、入居者の心の支えとする等工夫しています。夏祭りでは地域の子供たちとも触れ合ったりする機会を設け、ご家族も温かく迎え入れるよう配慮し、「町に暮らす」をホーム理念に掲げ地域との関わりを重ねていきたいと思えます。近頃は、飛び込みの介護相談もいただくことがありました。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「町に暮らす」をホーム独自の理念とし、今までと同じ生活が出来るようにつなげがえのない人や場を大切にしたいとの思いから、外へ出かける支援を心がけています。まちづくり協議会に参画し、公園美化や地域巡回などに参加して、震災を経験した地域ならではのネットワークの中で理念が実践されています。職員はお互いの意見や思いが全て伝わるように、定期的にユニット会議で話し合ったり、プライベートで食事をするなど年齢や性別に関わらず、言いたいことが言える関係作りが構築され、職員配置にも余裕を持たせることで働きやすい環境を整えています。またレクリエーションの充実にも努め、体操やゲームで身体を使ったり、利用者と職員と一緒に季節の壁画を作って掲示するなど、好きな事がいつでも出来るよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所と朝礼場所に掲示し、唱和して、地域とのつながりの大事さを共有しています。	誰にでもわかりやすく方針を伝える言葉として「町に暮らす」をホームの理念としている。職員は利用者の入居前からの人との繋がりを大切にしたいとの思いから、ホームに留まることなく地域に出かけることで理念の実現を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加しています。地域資源の活用や小中学校の体験学習の受入れ、ふれあいのまちづくり協議会ともお付き合い頂いています。	運営推進会議で情報を得て、地域のまちづくり事業に参加し、ふれあい喫茶等さまざまな行事に参加し、地域高齢者や子供たちと交流している。ホームの夏祭りは地域の恒例行事となっている。また公園の花の植え替えを手伝ったり、利用者と共に防犯の為に地域巡回を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小地域ネットワークでは、グループ討議のまとめ役をさせて頂いたり、在宅事業所連絡会で講師をさせて頂きました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や民生委員、薬剤師、地域包括センター等が参加する運営推進会議を2ヶ月に1回開催しています。ホームの状況や職員の研修内容などを報告し、参加者から認知症や独居高齢者について話があり、民生委員から地域の方の話が伝わるなど有意義な場となっています。	2か月に1度開催される運営推進会議では、ホームからの現状や行事報告がなされ、参加者から地域の情報を得たり、地域の高齢者問題を話し合ったりしている。利用者や他のグループホーム職員なども参加があり、意見や助言を運営に反映させている。今年度は家族の参加が無く、今後の課題となっている。	家族の参加は課題であり、年2回開催される家族会と合同で行ったり、行事の際に開催するなどして、家族の参加を得ることで多くの意見が反映された会議になることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常時、FAXにて市の担当から情報を頂戴できます。また区の担当課へは何かあれば出向き、相談できるよう連携を図っています。	区が主催する地域ネットワーク会議に参加し、行政や民生委員、婦人会、事業所等枠を超えて協力し合い、地域問題を検討している。また区の担当者とは何でも相談できる関係にあり、ホーム会議に出席して意見をもらったり、訪問や電話をし合うなど、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日身体拘束をしないケアの為、ユニット会議で見直しを行っている。 身体拘束廃止委員会はスタッフ全員	玄関の施錠はせず、各ユニット入り口は危険防止の為、オートロックで管理している。安全を第一に同意書を交わして転落防止のためベッド柵をしている利用者もいる。身体拘束の正しい知識はホーム会議の際に勉強会を開いたり、管理者がその都度説明している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で研修会を行い、会社全体で学習テキストを使って防止に努めている。弊社では相談窓口を設けています。	ユニット会議で話し合い、個々の対応について例を出し検討している。管理者は職員の勤務が密にならないようにシフト調整したり、試行的雇用を利用して配置を増やすなどの工夫をしている。また、法人の研修を毎年行っている。	

ニチイのほほえみ神戸西代(1階さくら)

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを完備しています。ご入居者様数名が、成年後見制度の利用をしており、当事業は弁護士、司法書士とのやりとりの機会を持っています。	必要時に備えて、パンフレットを用意している。現在成年後見制度を利用している利用者もいるが、職員間での制度や活用方法について学ぶ機会は、持っていないのが現状である。	成年後見制度を活用している利用者もいることで、職員間で制度について勉強会を行ってはいかがでしょうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、内容を読み上げ、説明を行い、解約時にも同様に確認を行う。	入居前には、契約書や重要事項説明書を中心に2～3時間かけて利用者や家族に説明している。ホームとして出来ること出来ないことについて詳しく説明し、タクシーの利用や個々に発生する料金など、具体的な対応についても説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口の案内及び掲示を行っている。さらに玄関に「ご意見箱」を設置している。家族会も都度開催している。	利用者は運営推進会議に参加してもらったり、食事の希望をアンケートで聞いている。家族の意見は来所時や電話等で聞いている。また法人のアンケート調査や家族会を定期的に行い、家族の意見を検討し、ホーム便りで伝えサービス向上に努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、ユニット会議を毎月開催し、機会としている。	定期的に行われるユニット会議やプライベートで食事会をして個々の意見や悩み、アイデアを出し合うように努めている。何かあればリーダーと携帯電話でのやり取りをしたり、ホーム長は気になることがあれば職員と面談をする機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得により昇給手当があり、推奨しています。また、弊社ではコンプライアンスを重要視しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	弊社ではキャリアアップ制度や新入職員にはトレーニング期間を設けています。ホーム会議やユニット会議で学ぶ機会を設けています。また外部研修の案内を回覧しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長田区内の5グループホーム連絡会が3ヶ月に1回あり、参加しています。他のグループホームの運営推進会議にも参加している。		

ニチイのほほえみ神戸西代(1階さくら)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談し、アセスメントを行い、スムーズに入居できるよう、サービス担当者会議を開催している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談し、アセスメントを行っている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所でその方の支援がふさわしいのか入居判定会議を行い、他のサービス等も視野に入れ、入居受け入れを決定している。他サービス、施設の案内も用意している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を一緒にたたんだり、掲示物を一緒に作ったり一緒に仕事をしよう心がけている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問を温かく迎えられるよう配慮し、足が遠のいておられるご家族には、物品の購入の依頼等をお電話でお願いしたり、ご家族内での役割を持っていただけるよう配慮している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の訪問を積極的に受け入れ、買い物や散歩の外出時、立ち寄りしたりしている。外出先で知人と会うことができることもある。	知人や以前のお弟子さんが訪ねに来てくれる。買い物帰りに知人宅に立ち寄り、家族の店を訪ねて一緒に写真を撮り、ふれあい喫茶で偶然友人に出会うなど馴染みの場所に行けるように支援をしている。友人に年賀状を出したり、利用者自筆の手紙を家族に出すなどの支援をしている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がトラブルにならないようスタッフが配慮し、間に入ってできるだけ友好的な関係が保たれるよう配慮している。		

ニチイのほほえみ神戸西代(1階さくら)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いに行ったりしている。入院中は物品の入れ替え等も行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族にモニタリングを行い、意向を把握するよう努めている。コミュニケーションを取りづらい場合は、表情などから推測して本人の思いを活かせるよう努めている。	入居前には必ず自宅を訪問し、生活環境を見て現状を把握するよう努めている。また日々接する中で、利用者の表情や行動の裏に隠れている思いをくみ取り、職員間で対応を検討している。情報はセンター方式の一部を利用し、思いの共有を図っている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報、本人のつぶやき等から本人の生活歴など、センター方式のアセスメントシートを利用し、把握に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等から、一人ひとりの一日の過ごし方を把握できるよう勤め、心身に変化があった時には情報を皆で共有できるようにしている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメントシートを全スタッフで記入し、担当者会議を通して介護計画書の修正を行っている。	毎月のユニット会議の際にカンファレンスを行っている。欠席者の意見は事前にメモに記載してもらい反映させている。ケアプランは3ヶ月毎に評価し、サービス担当者会議で検討され、ケアプランの見直しや更新をしている。再アセスメントの際には家族や職員はセンター方式に記入して、カンファレンスで一つに集約している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と業務管理日誌で情報を共有し、実践や介護計画の見直しを行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に支援の望めない状況等があれば、職員が通院や受薬等支援したり、個別で対応している。		

ニチイのほほえみ神戸西代(1階さくら)

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の地域イベント、ふれあい喫茶への参加等を支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診状況、薬の変更等を家族へ毎月報告、希望に沿えるよう家族の希望もお聞きして伝えている。	入居時に希望を聞いて決めているが、ほとんどの方が協力医をかかりつけ医としている。協力医の定期的な往診があり、緊急時や夜間の連絡も可能である。2件の訪問歯科による定期的な往診があり、必要時には皮膚科の往診も可能である。提携薬局に利用者の薬の管理をしてもらうなど、安心の医療体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お一人に限ってのことになりますが、訪問看護と連絡を取って、情報交流を行ったりして、適切に看護を受けられるよう支援している。次年度はホームが医療連携体制を整えるように準備中です。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中訪問して、主治医、看護師、相談員と情報交換を行っている。	入院の際にはホームでの様子を書面にて病院に提出し、入院中は頻りに訪問し物品の入れ替えや洗濯物の支援をしている。また治療方針やケアについて家族や医師と相談し、早期退院に向けての支援を行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ホーム内でできる事、できない事を入居時にも説明しているが、早い段階で緊急時の対応等も話し合い、ホーム内で最善を尽くせるよう取り組んでいる。	医療が必要となれば退去をお願いする場合もあることを入居時に家族に説明している。往診時に家族と医師、職員が協議し入院に至ったこともあり、早い段階から希望を確認している。今後は訪問看護による医療連携体制を導入する予定であり、訪問看護師による処置やケアについて勉強会を行い、スキルアップを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム会議で救急救命処置についての研修訓練を行いました。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に沿って実施している。	年に2回避難訓練を実施し、1度は消防署立ち会いのもと開催し、ホーム独自でも昼間を想定して避難訓練を行っている。町内からの協力の声はあるが、実際の参加は無く、市の指導もあり、地域の協力は今後の課題となっている。	運営推進会議の際に避難訓練を実施し、参加者に見学してもらったり、消防署の立ち会いの際に地域に声を掛けるなどされてはいかがでしょうか。また、夜間を想定した訓練の実施も期待される。

ニチイのほほえみ神戸西代(1階さくら)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りを損ねない対応や言葉かけは心がけています。	「親しき仲にも礼儀あり」を実践し、個々の対応の違いについても信頼関係を築いた上で言葉かけが出来るように職員に伝えている。不用意な言葉かけを見かけた際にはリーダーがその場で注意し、ユニット会議でもマナーや接遇について勉強会を行っている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方にも二者択一にする等して自己決定の場が確保できるように働きかけている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時は個々のペースを大切にしているが、食事や入浴はおおむね時間をこしらで決めている。気分のムラや拒否があったりした時には時間をずらしたりして支援している。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んだりするときはその人の意見を聞いたりしている。また、補正や繕いを行っている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	豆の筋取り、テーブル拭き、お盆拭き等できる事を探して一緒にできるよう努めている。	担当職員が利用者の希望を聞きながら献立を立て、利用者と一緒に買い物に出かけている。利用者と職員は下ごしらえや盛り付け、配下膳等一緒に行っている。行事食やおやつと一緒に作ることもあり、毎月1日は必ず赤飯を炊き、利用者の楽しみとなっている。	自分たちで作った食事を共に味わい、味付けや出来栄えについて語り合うことで、食事時間が楽しいものとなるよう、1人でも職員と一緒に同じものを摂られてはいかがでしょうか。
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状況に合わせて、お粥、ミキサー食、きざみ食等にしたり、おにぎりにしたり、個別対応している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを心がけているが、朝食後は夜勤者1人での対応時、口腔ケアできずに居室に戻ってしまわれるケースがある。		

ニチイのほほえみ神戸西代(1階さくら)

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツをはいていた方もできる限り使用を減らせるようトイレ誘導を行っている。	排泄チェックリストにより個々のパターンを把握して行動や様子を見ながらトイレ誘導をしている。日中は出来るだけ布パンツで過ごしてもらい、夜間も眠りの浅い時間にトイレ誘導して、気持ちよく過ごせる支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促進の為に、喫茶のメニューを色々取り入れている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の入浴時間は決めているが、ご本人の意向を伺い、個別に楽しんでいただけるよう声かけしている。	毎日午後から夕食前まで準備している。希望があれば、毎日や午前中の入浴も可能で、2日に1度は入浴できるよう支援している。ゆず湯や菖蒲湯など季節のお湯を楽しんだり職員とゆっくり会話を楽しみながら入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングでの傾眠が見られるときは居室へ誘導するなどしてご本人の体調や休息の状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携医、薬剤師の管理の下、連携を取って量の調節や変更等を相談し、確実な服薬確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり役割を持って、日々過ごしていただけるように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩に出かけられるよう支援している。介護タクシーを使ってユニット全体での外出行動も企画する。	毎日の食材や嗜好品の買い物に出かけたり、利用者が防犯ボランティアとして近隣の巡回に出かけている。個別の希望により喫茶店や図書館、書店に出かけたり、家族との外出や外食を支援している。また行事として水族園や花鳥園、動物園に出かけている。	

ニチイのほほえみ神戸西代(1階さくら)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員が支払等している。 買い物外出時にレジでの支払をご本人にさせていただくようにしている方もいます。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ファックスや年賀状等、手紙を書いたりしてご家族との交流を支援している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手の届く所、見えない所に気になる物は置かないよう配慮している。	リビングには行事で外出した様子の写真や習字・硬筆、職員と一緒に作ったちぎり絵など季節を感じる作品が掲示されている。また玄関には季節の生け花が利用者の手で活けられている。共用部分は清潔を心がけ、清掃を徹底している。和室を設け横になったり、ソファや椅子を置き、寛いだり1人になれる空間を作っている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで並んで座って話をしたり、畳でごろんと寝そべったり、居室以外でもされている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で馴染みの家具、仏壇等を持ち込んでいただいたり、身体機能をかながみてレイアウトを行っています。	居室前にはベランダがあり明るく、居室にはクローゼットが用意され、ベッドやタンス、姿見、テレビ、仏壇、冷蔵庫を持参されている利用者もいる。机の上に家族の写真を飾ったり、自分の写真を大きく引き伸ばして飾り、居心地良く過ごされている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、トイレの表示などに工夫している。 色合い、太さの工夫を行っている。		